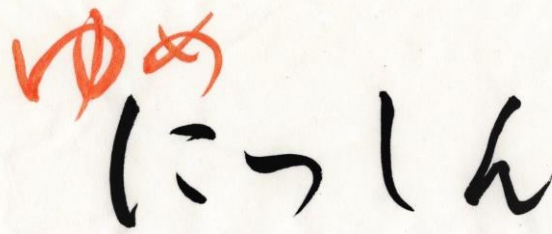


日新

日新地区だより 65号

「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに
日日新 ひ び あら 日々に新たに
又日新 また ひ あら 又日に新たなり
出典 「大学」



発行： まちづくり日新 広報部会
福井市文京5丁目1-8 日新公民館
発行日：令和5年（2023年）3月3日

マスク本当に外していいの？

ゆめ・にっしん 62号（2022年6月発行）の一面で「ついにマスク着用緩和（5月20日の厚生労働省から各都道府県への事務連絡）」を掲載しました。今回は政府が今年の3月13日から「屋内外に問わず、個人の判断にゆだねられることにする。ただし、医療機関を受診する場合や通勤ラッシュ時においてはマスクの着用を推奨する。」を発表しました。



特に、文部科学省からは、学校では、新学期の4月からはマスク着用を求めないことを基本とし、その前に行われる卒業式は教育的意義を考慮し、児童・生徒などは着用せずに参加する事を基本とするとの見解です。

ただし専門家は「マスク着用をめぐって、緩和する方向ばかり注目されがちだが、強調したい最も重要なことはマスクは今でも一定の効果がある大事な感染対策だということだ。効果がない、必要ないから外してよい、ということではない。

たとえば高齢者や持病がある人も含めた不特定多数の人と密になるような電車内や、重症化リスクが高い人が多い医療機関などでは、自分を感染から守るためだけでなく、周りを感染させず、不安を与えないためにマスクを使っていくことが必要になる」と強調しました。また、別の医療機関の関係者によると今回の感染症はインフルエンザと同等であると言っている人もいますが、後遺症が長い時では100日以上続く場合があるので同等ではないと言っています。

何れにしても情報を収集し分析し各自の判断にゆだねる事でしょう

マスク外すの怖い



若い人の声を拾ってみると「tiktok.com」ではマスク依存症の投稿が大変多いです。「顔にコンプレックスあり、学校で笑われる」「目から下ガッカリされるからマスク外すの怖い」「マスク外すの恐怖の瞬間」

悩み・・・マスクを外すのが怖いです。同じような人は多いと思いますが、本当に顔を見られたくないです。コロナウイルスが流行する前はマスクが嫌いだったんですが、今ではもう人前でマスクを外せなくなりました。肌も汚いし歯並びも悪くて想像と違うと思われたくないんです。それは自分の笑い方とか表情がマスクを外すとわからなくなったので、どんな表情をすればいいのかわからないです。自分の表情を見られたくないです。マスクを外したら友達と目を合わせることも出来なくなってしまいました。友達もマスク外したくないと言っていたんですが、あまり深刻そうでもなかったし、体育の時もずっとマスクを外したいと本当は思っているのかどうか考えてしまいます。同じ悩みの人いますか？

解答・・・私もここ2年ほどはマスクを外したくないと思ってしまっています。体育時にもつけますし、給食時も顔を隠してしまいます。同じような人も周りにたくさんいるので、気にしなくても大丈夫だと思います。もし外さないといけなときは「私のこんな顔見たくいでしょう」という気持ちでいます。また、コロナ前の写真や、自分のマスクなしの顔を鏡で見たりすると、慣れるかもしれません。あとは、落ち込んでしまうので、なるべく可愛い子を見ないようにします笑

また、マスクを付けていた年間での弊害として

マスクを着用し続けたことでのチョット気になること

大人は言葉数が減ったことから声帯が使われなくなったことで声が出にくくなっているようです。また、幼児は周りの人の口元が見えないので、口の形で変える（母音）の発声がむづかしいようです。

ハツ島白山神社奉賛会の今年の取り組み

みんなで作る町をめざして!!



福井新聞（1月20日朝刊）に「地域の神社に親しみを」で紹介されたハツ島白山神社奉賛会会長菊川幸雄さんにインタビューしました。奉賛会はハツ島白山神社を中心に周り（ハツ島1～4、東上里、東ハツ島）の氏子約400戸ぐらいで構成されています。2年前からコロナウイルス感染症が広がり、人々が集まれなくなりました。当然地域の中心である神社の祭りも同じでした。特に子供たちの笑顔が見られなくなりました。

コロナ感染拡大前の宮島地区の振舞い餅の時、子供達が餅の搗き手になると、生き生きした顔、はしゃぐ声が境内に響いたことを思い出します。これを見ていた周りの大人も笑顔になりました。このような光景を再現したいと、奉賛会役員十数人が集まり、神社の行事を計画し始めたのが昨年であります。同時に5月にはマスク着用緩和が政府から発表されました。

そこで昨年は4～5月には**鯉のぼり**を地区内から集めて、約20本建てるイベントを企画し実現しました。このイベントは地域の方から「鯉のぼりが余っているので何か使えないかな」との意見がきっかけです。また、鯉のぼりを低学年の子供たちでも手で触れるぐらいの低さに設置し楽しんでもらいました。また、5月5日の子供の日にはライトアップを行いました。今年も同じことを計画していますが、昨年使用したものは風雨にさらされたために、傷みがあります。再び周りの人に声をかけて鯉のぼりを集めることになっています。



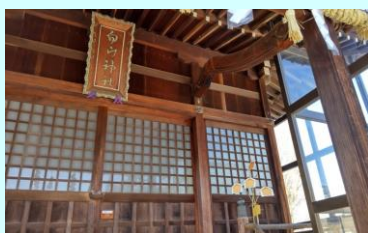
「作業は大変だけど昨年一回行っているので運営の土台は出来ているから大丈夫」と会長菊川さんは確信をもって言われました。今年も是非「さんさんバス」に乗って、見に来てほしいとのこと。

昨年行った**キャンドルナイト**は、今年は9月29日（限定）に計画しています。中秋の名月と境内に透明なカップの中に置いた蠟燭（約1000本）で幻想的な雰囲気を出します。子供たちがカップにマジックで絵を描きます。天体望遠鏡も設置し月見も楽しんでいただきます。子供さんも含めて沢山の地域の方に来ていただきたいです。



ライトアップイルミネーションは11月初旬から、本殿の周りを200～300個の電灯で飾ります。また、銀杏が黄色に色づくころを狙います。昨年は風が強い日だったのであまり人が集まりませんでした。今年は沢山の見物人が来ることを願っております。

年頭から、境内には**おみくじと絵馬**を用意しています。訪れた方が、おみくじや、絵馬を境内に飾ったものを来年の1月15日に**どんど焼き**を行い燃やす予定です。神の使い手の子供たちが集まりにぎやかな声が聞けるといいですね。



何故この様なイベントを企画し、運営していくことになったのかとお聞きすると、「いま神社離れが進んでいます。隣近所の人がどんな人かわからない。いざ災害が起きた時どうなるのか？昔は神社や寺院にみんなが集まっていた。互いに助け合っていた。まずは、子どもたちが集まり、若い人達にも神社に来てもらって楽しんでもらい、地域に興味を持ってもらいたいからです。」と答えていただきました。

今回はハツ島白山神社の年間の取り組みを取材する中で、まちづくりの原点を考えさせられた気がします。

写真提供は坂井良一さん

特集「さんさんバス」4月から新ルート

日新地区を中心に運用されている「さんさんバス」は平成24年11月に試行運行が始まって以来10年が経過しました。日新地区と周辺地区を巡り、買い物・通院・そして高齢者の日常生活をサポートする一役を担ってきたように思います。昨今のコロナ禍で乗車率の低迷を招きましたが、この2023年4月から飯塚町の



MEGA ドンキへの新ルート

がスタートすることになり新たな展望が期待されます。

新ルートでは公民館の停留所が駐車場の横に設置されるのでより便利になります。

4月1日(土)・3日(月)・4日(火)には乗車さ

れた方に**粗品のプレゼント**があり、新たに**ポイントカードを発行**してお得な

企画を用意しています。毎月2回の**公民館映画会**(さんさん映画会)も継続するので、おいしいコーヒーを飲みながらお楽しみに是非ご参加ください。

はやく4月にな〜れ



さんさんバスの会議中

女性Eさんの感想

自宅の近くに「さんさんバス」の停留所があるので、買い物・通院・佐野温泉に行く時等に利用しています。でも、福井駅前に出かける時は「行きはよいよい帰りは怖い」ではないけど、電車と「さんさんバス」の乗り継ぎ時間が合わず運転手さんに往きの下車時にお願いし、ほとんど利用者のいないバス停(私にとっては懐かしい旧西藤島地区)を回り福井駅から1時間かけて自宅に到着する状態です。4月から新しいダイヤで新コースが運行されるとのこと大変楽しみにしています。もっと多くの方が「さんさんバス」を利用して、



4月から直通でメガドンキに

楽しく買物等に出かけられるよう「さんさんバス」が益々発展していくよう皆様と協力し

ていきましょう。

「市立図書館・県立美術館・フェニックスプラザへも行けるよ」

運転手さん 「コロナになってからは、佐野温泉と、映画会の時しか殆どお客様がいません。メガドンキに行くようになると、いっぱいのお客様が乗ってくれるといいですね。」



福井市のコミュニティーバスの基本的な考え方

- 鉄道の駅・路線バス停への乗り継ぎ可能
- 生活関連施設を經由
- 路線バス・乗り合いバス交通ルートとの整合性
- 1台のバスの乗車人数11人以上

福井市と京福さんの「さんさんバス」担当者の方からのエール

日頃から、日新地区の皆さまには、本市の公共交通行政の推進に御協力いただき、厚く御礼申し上げます。日新さんさんバスについては、新型コロナウイルスの影響もあり、



利用者数が伸び悩んでおりましたが、ルート改正を図るため、令和3年度にアンケートを実施いたしました。

その中で、約7割が普段 MEGA ドン・キホーテを利用し、約6割が日新さんさんバスでの運行を希望していたことから、昨年より運行協議会と協議を重ね、本年4月から MEGA ドン・キホーテ経由のルートとして運行されます。日新地区の皆さまには、ルート改正を機に、これまで以上に利用促進に取り組み、ご利用いただくようお願いすると同時に、当課も、運行継続できる取組を地区の皆さまと考えていきたいと思っておりますので、今後よろしくお願いいたします。（木内様より）

日頃は、バスの安全運行にご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、コロナ禍により人の移動が制限または自粛する傾向となり、はや3年がたちます。

公共交通に関しても、この影響は大きく、路線バスについてはコロナ以前に戻る見通しが未だ立っておりません。

日新地域コミュニティバス(日新さんさんバス)についても、他の路線バスと同様に、コロナの打撃を大きく受けている現状です。

その打開策を模索しながら、2022年度は関係者一体となり検討と協議を続ける1年となりました。

皆様にご協力いただいたアンケートを参考に、2023年度からの運行に関しては新ルートでの運行を予定しております。京福バスとしては、まずは安全運行を第一に努めてまいります。多くの方ご利用をお待ちしております。（宮下様より）

女性 Y・M さんからの感想

毎週月曜日には、公民館発 10 時の「さんさんバス」で**佐野温泉**

へ行きます。バスに乗ると、1週間ぶりにいつもの顔ぶれの笑顔が迎えて下さいます。JA 農協で横付けの佐野温泉のバスに乗り換えます。歩く距離が短いことは、老人の私達には感謝です。そして運転して下さる岩堀さんの一言の挨拶で出発。車中は賑やかです。「柿が鈴なり、みかんが色付いてきた、白山が綺麗だ」四季折々の田園風景に話にも花が咲きます。



佐野温泉では、溢れる湯量と日本には玉川温泉と二か所しかないという「ミスト浴」に汗を蒸散させ気分爽快、昼食は食堂にて自分好みのメニューに満腹、食後はカラオケ組、お話しお休み組、ミスト組と自由に過ごします。時間までには2回浴の人も多いです。帰りは3時発の温泉バスにて農協へ、バスの中は静かでゆったり気分です。



「さんさんバス」に横付けに止まってくださり、またまたありがたい心遣いに只々感謝です。歳を重ねると、一日一日の命と、一回一回の出会いを大切に楽しみを待ちます。

4 月からバスの行程が変更になり**「ドンキホーテ」**へも行けるようになると聞

き、友人と**「ゆっくり遊んでこようね」**と今から楽しみにしています。「さんさんバス」のお陰で日新地区外の人達とも交流が深まり、一人暮らしの人は大変喜んでおられます。これも温泉での会話と笑顔のお陰です。「転ばないように気を付けて、注意して一回でもバスに乗れたらいいね」とは私たちの合言葉です。

豆知識 (魚の数え方)

一番多く使われているのは「匹」ですが、「匹」は海や川で泳いでいる生物の時である。

水から上がって商品や食材になるとき「尾」。

カツオ・マグロ・ブリなど大きな魚とサンマ・タチウオの時は「本」。

ヒラメ・カレイなどの平たい魚の時は「枚」。ウナギのかば焼きは「串」。

イワシ・シシャモなど小さい魚の時は「蓮」。魚を三枚におろしたときは「冊」。

イカ・カニ等胴体が容器の形の時「杯」。開いて干し物にすると「枚」。

塩焼き・お造りに切り分けた時「切れ」。カズノコなどの魚の卵は一匹の腹から左右をセットにして「一腹」。

